



ブルーノ・マーズの新クラブ「The Pinky Ring」に 音の名品 L-Acoustics A15i が登場



ブルーノ・マーズのバンド、ザ・フォーリガンズ @ The Pinky Ring (© Daniel Ramos)

2024年7月

ショーマンシップとエネルギーに関しては、ブルーノ・マーズの右に出る音楽アーティストはほとんどいないでしょう。ブルーノ・マーズは、あっという間に巨大なスタジアムを満員のファンで立ち上げさせ、ショーの間ずっと踊り続ける男です。彼は、K2スピーカーによるコンサート用サウンドシステムを使用する Park MGM の Dolby Live で、9年間ダイナミックな公演を行い、ラスベガスのレジデンシーのトップアーティストであることも証明しましたが、この世界的スーパースターは、ベラージオ・ホテル&カジノ (Bellagio Hotel & Casino) 内の親密な新しい会場である The Pinky Ring (以下「ピンキーリング」と言う) に、彼の特徴的なサウンドとシックでレトロなスタイルをもたらしました。今回は、L-Acoustics の A シリーズによるサウンドシステムが導入されました。

ピンキーリングのあらゆる要素、つまりしゃれたレトロなインテリアデザインから、想像力豊かなカクテルの創作、新進気鋭の有名アーティストによる刺激的なライブパフォーマンスまで、すべてはマーズが自らキュレーションしたもので、マーズは2月に長年のグループであるザ・フォーリガンズとの2週間のレジデンシーでこの会場をオープンしました。

「音楽は、間違いなくピンキーリングでの体験において極めて重要です。」と、フォーリガンズのミキシングを担当したフリーランスのエンジニア、ブラン

ドン・アンドレアセン (Brandon Andreasen) 氏は言います。「ブルーノがステージに上がると、ときどき観客の叫び声が 100 dBA を超えることがあります。そのため、パフォーマンスの忠実さとニュアンスを維持しながら、それに匹敵できるスピーカーシステムが必要でした。このような小さな L-Acoustics A15i アレイが生み出すことのできるパワーの大きさにとても感動しています。ピンキーリングにある個別の 2 ボックスアレイからアリーナサイズのサウンドが得られるような気がします。」



© John Esparza





© Daniel Ramos

PSXによって構築されたコンサートサウンドシステムは、音響会社Designtechnikによってデザインされ、元ブルーノ・マーズのSEで現在はL-Acousticsのアプリケーションエンジニアであるクリス・サリバン (Chris 'Sully' Sullivan) がデザインをサポートしました。L-Acousticsの音響モデリング・ソフトウェア Soundvision を使用し、A15i FocusとA15i Wideのメインアレイをステージ両サイドの上部にフライングするシステムを構築しました。ローエンドには、デッキの下のコンクリートに4台のSyva Sub エンクロージャーが水平に並べられ、両側に1台ずつエンドスタックされたKS28サブウーハーの上にフロントフィル用のコアキシャルX12が配置されています。モニタリングのためにステージの前に2台のX15 HiQ ウェッジが置かれています。

ピンキーリングの「リビングルーム」の後方とダンスフロアエリアには、天井に取り付けられた3台のX8ディレイスピーカーと2台のSB10iサブウーハーが設置され、さらにX8とSB10iが2つのメインなVIPエリア全体に配置されています。豪華で人気の高い後部座席のバンケットには、合計6台のX4iと3台のSB10iが設置され、最も高額な座席に座った観客が最高に親密なショーを体験できるようになっています。6台の超小型X4iスピーカーと4台のSB6iサブウーハーは、グラミー賞の賞状が並ぶメインエントランスの廊下に沿って頭上にフライングされています。Syva SubとKS28のパワーはLA12Xアンプリファイド・コントローラーで供給され、残りのセットアップはLA7.16iで駆動されます。システムの前段にあるL-Acoustics P1がMilan-AVBへの変換処理します。

サリバンは、マーズの要望により、視覚的な一体感を高めるために、システムを意図的に会場の前方にオーバーディレイさせていると指摘します。「すべてがオーバーディレイされていますが、イメージがステージから直接来ているように聞こえるように埋められています。」と彼は説明します。「たとえば、バンケットの下のスピーカーはほぼ10 dB下げられています。これらは主に、インパクトを与えるためではなく、イメージを引き出すために使用されています。これは微妙な効果であり、それらが何かを行っていることに気づく唯一の方法は、後ろにあるすべての音を消すことです。その時点では、非常に平坦で空虚な音がします。しかし、それらをオンにすると、音が突然ステージから直接来ているかのように、心地よく丸みを帯びます。」

マーズ自身を含め、メジャーな有名人やミュージシャンの姿がピンキーリングで頻りに目撃されており、会場のシステムは皆を笑顔にしています。「ここでのオーバーレイレベルはAレベルのアリーナ・ポップスター並みです。これがまさにブルーノが期待していた『熱気』です。システムをオンにして初めてサウンドチェックをしたとき、ブルーノは大喜びでした。」

その満足感は、ミキシング・コンソールにいるエンジニアにも伝わっています。「Aシリーズでミキシングをするのは今回が初めてですが、とても楽しいです。」と、アンドレアセン氏は熱く語ります。「とても楽しいのは、ブルーノが作り上げるライブ・エンターテインメントのおかげです。ステージから流れる音源は非常に優れており、このシステムは彼らのパフォーマンスを完璧に引き立てます。」

親密な雰囲気にもかかわらず、ピンキーリングは大きなエネルギーを生み出すことができます。「他の会場では、妥協せざるを得なかったり、思い通りのサウンドが得られなかったりすることもあります。しかし、このシステムのおかげで、現在すべてのライブミュージックをミックスしているロス・ブラック (Ross Black) は、毎回完璧なミックスを提供できます。」



© Daniel Ramos